

# 2022年3月期 第3四半期 決算説明会

2022年2月1日  
日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

- ✓ システムサービス 及び アウトソーシングが堅調に推移し営業増益。
- ✓ 受注高は引き続きシステムサービスが高水準で推移。

(単位:億円)

	2021年3月期 3Q(4-12月)	2022年3月期 3Q(4-12月)	前年同期比		
売上収益	2,180	2,178	△1	(△0.1%)	(売上収益) DX案件を中心にシステムサービスが伸長し、アウトソーシングも堅調に推移。前年同期の大型ハードウェア案件の影響をカバーし、売上収益は前年同期並み。
売上総利益	559	584	+25	(+4.4%)	(営業利益) 販管費は増加したものの、利率改善による売上総利益の拡大により、営業利益は増益。
販管費	△385	△397	△13	(+3.3%)	(当期利益) 営業増益および金融収益の増加等により当期利益は増益。
営業利益	175	188	+12	(+7.1%)	
(営業利益率)	(8.1%)	(8.6%)	(+0.6pt)		
親会社の所有者に帰属する 当期利益	119	136	+17	(+14.6%)	
調整後営業利益*	174	186	+12	(+6.9%)	
(調整後営業利益率)	(8.0%)	(8.6%)	(+0.6pt)		
受注高	2,149	2,162	+13	(+0.6%)	(受注高・受注残高) 前年同期に大型アウトソーシング案件およびハードウェア販売案件の計上があったものの、システムサービスが2Q同様好調に推移し、受注高は前年同期比増加。受注残高も順調に積み上がる。
受注残高	2,235	2,407	+172	(+7.7%)	
(内、年度内売上予定分)	588	667	+79	(+13.5%)	

\* 調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

まずはじめに、2022年3月期 第3四半期累計期間の決算概要についてご説明します。

資料の1ページをご覧ください。

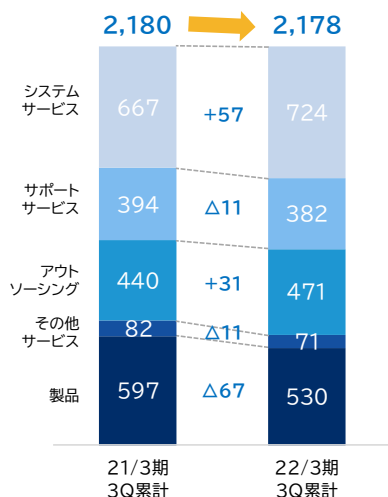
売上収益は、システムサービスにおいてデジタルトランスフォーメーション関連を中心とした中小型案件が拡大したことに加え、アウトソーシングも堅調に推移しました。しかしながら、前年同期において、ハードウェアの大型案件の計上が複数あった影響から、前年同期比では1億円減収の2,178億円となりました。

利益面につきましては、収益性の向上などにより、売上総利益が前年同期比で25億円の増益となったことから、販管費が13億円増加した影響を吸収し、営業利益は前年同期比12億円増益の188億円となっております。なお、営業増益および金融収益の増加により、当期利益は17億円増益の136億円となりました。

受注高につきましては、第2四半期同様に金融機関や小売業向けなどのデジタルトランスフォーメーション関連案件が堅調であったことから、前年同期に受注した大型のアウトソーシング案件やGIGAスクール関連のハードウェアが減少した影響をカバーし、前年同期比で13億円の増加となりました。

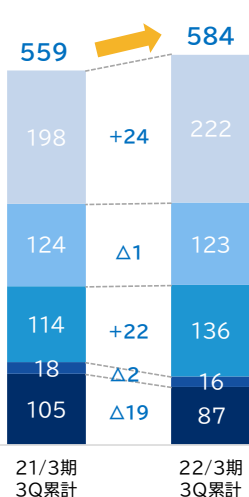
売上収益

Δ1  
(Δ0.1%)



売上総利益

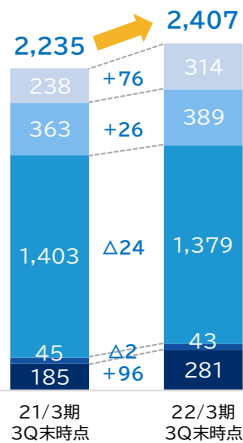
+25  
(+4.4%)



【ご参考】

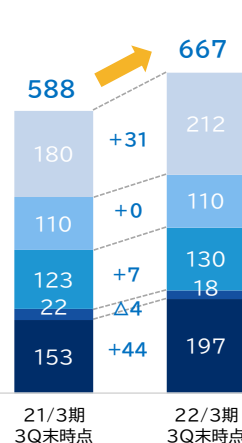
受注残高  
(合計)

+172  
(+7.7%)



受注残高  
(年度内売上予定分)

+79  
(+13.5%)



続きまして、セグメント別の状況についてご説明いたします。

資料の2ページをご覧ください。

まず、売上収益、売上総利益に関し、

システムサービスは、金融機関や小売業向けでデジタルトランスフォーメーション関連案件が堅調に推移しているほか、「BankVision」累計12行目の開発も予定通り進捗しており、増収増益となりました。

また、比較的収益性の高いDX案件が増加している効果もあり、収益性も向上しております。

アウトソーシングは、EC事業者向けや金融機関向けプラットフォームサービスが収益に貢献していることに加え、第3四半期においては「BankVision」の累計13行目の初期料金の計上もあり、増収増益となりました。

製品については、前年同期にGIGAスクール案件の計上があったことなどにより、減収減益となっております。

受注残高につきましては、引き続きシステムサービスが堅調となり、当期売上予定分のみならず、来期以降の売上拡大につながる案件が順調に積み上がっている状況です。

## 【アウトソーシング 売上収益】

(単位:億円)

	2021年3月期 3Q(4-12月)	2022年3月期 3Q(4-12月)	前年同期比
運用受託型	371	371	△0
企業DX型	33	53	+21
サービス型(事業創出型)	37	47	+10
売上収益 合計	440	471	+31

## (企業DX型アウトソーシング)

- ✓ 国内初のパブリッククラウドでのフルバンキングシステム「BankVision on Azure」が稼働中。新規ユーザーへの展開も開始し、顧客ベースが拡大中。
- ✓ 地域金融機関向け利用型勘定系サービス「OptBAE」の導入サービスを展開。複数の金融機関向けに提供中。

## (サービス型(事業創出型)アウトソーシング)

- ✓ EC向けプラットフォームサービス「DIGITAL' ATELIER(デジタルアトリエ)」の大手小売業への導入が上期よりスタート。3Qにおいては大手通販企業など複数の顧客への導入を開始。
- ✓ バリューカードビジネスやドライブレコーダーサービスは引き続き安定的に推移。

## 【アウトソーシング 受注残高】

(単位:億円)

	2021年3月期 3Q末	2022年3月期 3Q末	前年同期末比
受注残高 合計	1,403	1,379	△24

続きまして、アウトソーシングビジネスの状況についてご説明します。資料の3ページをご覧ください。

当第3四半期累計のアウトソーシング売上収益につきましては、前年同期比で31億円の増収となり、「企業DX型」、「サービス型」が拡大しております。

「企業DX型」につきましては、5月より稼働を開始している「BankVision on Azure」において、2行目となる新たな地域金融機関のお客様への展開も第3四半期に開始しており、顧客ベースが着実に拡大しております。また、地域金融機関向け利用型勘定系サービスである「OptBAE(オプトベイ)」につきましては、稼働に向けた導入サービスの提供を進め、1月より順次本番稼働しております。

「サービス型(事業創出型)」につきましては、EC向けプラットフォームサービス「DIGITAL' ATELIER(デジタルアトリエ)」の導入を、上期より大手小売業のお客様向けに開始しておりますが、第3四半期においては大手通販など複数のお客様向けの導入も開始いたしました。

今期よりスタートした経営方針で目指しているアウトソーシングビジネス拡大に寄与する、新たなサービスの1つとして順調な立ち上がりとなっております。

- ✓ 第3四半期は通期目標に向け想定通りの進捗となり、受注残高も堅調に積み上がっていることから、通期業績予想は期初公表値から変更なし。

(単位:億円)

	2021年3月期 通期実績	2022年3月期 通期予想	前期比	
売上収益	3,084	3,200	+116	(+3.8%)
営業利益	246	260	+14	(+5.6%)
(営業利益率)	(8.0%)	(8.1%)	(+0.1pt)	
親会社の所有者に帰属する 当期利益	166	175	+9	(+5.2%)
調整後営業利益*	252	265	+13	(+5.2%)
(調整後営業利益率)	(8.2%)	(8.3%)	(+0.1pt)	

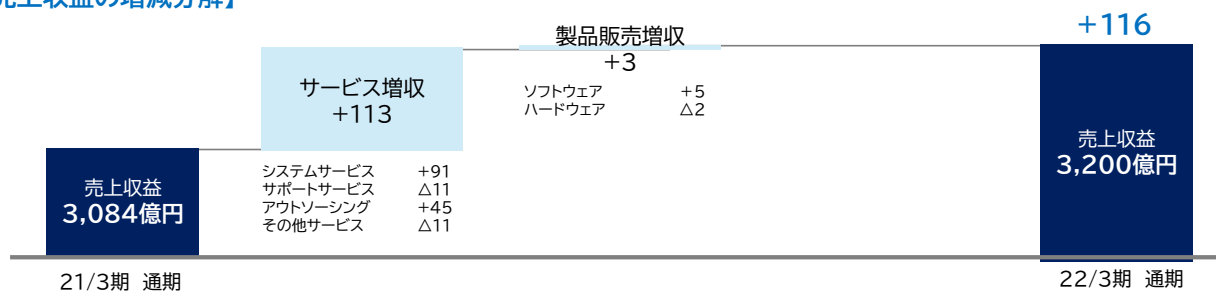
\* 調整後営業利益 = 売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費

最後に、2022年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。  
資料の4ページをご覧ください。

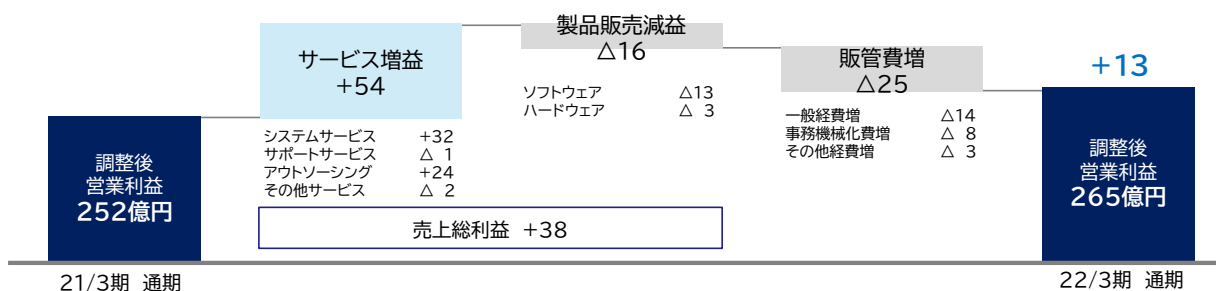
足元の事業環境につきましては、お客様のデジタルトランスフォーメーション実現に向けた投資意欲は非常に強く、12月末時点の今期売上計上予定の受注残高も積み上がっていることから、通期予想につきましては、期初に公表しました売上収益3,200億円、営業利益260億円、当期利益175億円から変更はございません。なお、調整後営業利益では、265億円の見通しとしております。

以上で説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

【売上収益の増減分解】



【調整後営業利益の増減分解】



日本ユニシス株式会社は、2022年4月より  
ビプロジー  
BIPROGY株式会社 へ。



本資料に記載の会社名、商品名および商標は、各社の商標または登録商標です。

**(注意)**

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。